

平成 27 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2015

Date: 平成 28 年 3 月 24 日

言語社会専攻長

日本語・日本文化専攻長 殿

To Dean of Studies in Language and Society

To Dean of Studies in Japanese Language and Culture

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパⅡ・教授
氏名 Name	高橋 美恵子
専門分野 Academic Field	社会学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	子育て世代のワーク・ファミリー・バランス
<p>本年度は、国際比較の視点からみた子育て世代のワーク・ファミリー・バランス（WFB）を主な研究テーマとして取り組んだ。第 1 に、研究代表者を務める科研プロジェクト「グローバル化時代の日本男性のワーク・ファミリー・バランスに関する研究」に携わり、WFB の実現度が高い欧州諸国（スウェーデン、ドイツ、オランダ）での就労経験をもつ日本人駐在員・元駐在員男性の WFB をめぐる意識や実践のあり方について考察を深めた。当該 3 カ国に駐在する男性を対象として実施したインタビュー調査（平成 25 年調査）から得られた知見をもとに、日本に帰国した元駐在員男性に行ったインタビュー調査（平成 26 年調査）結果の分析を進めた。欧州での生活体験を通じて、WFB をめぐる意識と行動に変化が生じ、帰国後、働き方を変えようと試みたものの、日本の職場の風土と働き方に障壁を感じているケースが多数を占めることが明らかとなった。家庭生活や自身の時間とのバランスが取れる働き方を実現するための方策について検討を進め、同研究成果の出版に向けた準備にも着手した。また本研究で得られた知見を、欧州における WFB に向けた実践・課題と照らし合わせ、日本の方向性についての議論を進める目的で、スウェーデン、ドイツ、オランダから当該分野の専門家を招聘し、2015 年 9 月上旬に国際セミナー（9 月 3 日：国立社会保障・人口問題研究所）と国際セッション（9 月 5 日：日本家族社会学会第 25 回大会）”Work Family Balance of Families with Small Children: How to achieve gender equality in parenting” を開催した。9 月中旬にはスウェーデンを訪れ、現地の WFB 研究の最新動向を探るとともに、研究協力者との議論を進めた。今後は欧州 3 カ国における実践や課題を踏まえて、家族やライフスタイルの多様性を視野に入れた WFB 研究へと発展させるべく、現地の専門家も交え、さらに研究考察を進めていくこととした。</p> <p>第 2 に、平成 27 年度の内閣府「少子化社会に関する国際意識調査」に企画分析委員として従事した。同調査は、平成 17 年度以降、5 年毎に実施され、今回が第 3 回である。第 1 回および第 2 回調査でも委員として参加した経験をもとに、調査票設計やスウェーデン語の調査票の精査作業にも携わった。日本、フランス、スウェーデン、イギリスの 4 カ国を対象とした第 3 回調査では、「子育て」に関する比較分析を担当し、調査報告書を執筆するとともに、子どもの福祉の視点からみたスウェーデンの子ども・子育て支援施策について概括した。</p>	